



9名の卒業式、ありがとうございました。あたたかい気持ちで、在校生も職員も、卒業生の旅立ちを祝うことのできた、素敵な卒業式でした。

昨日は、在校生も午前中下校で、比較的時間にゆとりのある午後でした。感想文集の製本にも、職員の和を垣間見ることができました。閉校時間もいつになく(?)早かったですね。時にはこういう日も大切ですね。

本を読むこと

というわけで、昨日は自分の時間がもてた夕刻ではなかったでしょうか。私も、いつもより早く帰ったので(いつも皆さんより早いのですが…)、読みかけの本を読むことにしました。「徹夜しても読みたくなる」と帯に書いてあった『雪の断章』(佐々木丸美)という本ですが、5日目にしてやっと読み終わりました。その後、もう一冊と思い、『神様のカルテ 0』(夏川草介)という本を読みました。これは、なんと一晩で読んでしまいました。その中で、心に残った会話がありました。紹介をします。地の文は省略して、会話だけ抜粋します。読んで、考えてみてください。

【その1】末期癌の「國枝」さんと研修医の「栗原」の会話です。

國枝「本はよいですな、先生」

栗原「確かに本は良いですが、肝腎なときに限って、なかなか役には立ちません。國枝さんのように治療を引き延ばそうとする患者に対してどうすればよいか『草枕』にだって答えは書いてありません。」

國枝「本にはね、先生。”正しい答え”が書いてあるわけではありません。本が教えてくれるのはもっと別のことですよ。ヒトは、一生のうちで一個の人生しか生きられない。しかし本は、また別の人生があることを我々に教えてくれる。たくさん小説を読めばたくさん人生を体験できる。そうするとたくさん人の気持ちが分かるようになる。」

栗原「たくさん人の気持ち？」

國枝「困っている人の話、怒っている人の話、悲しんでいる人の話、そういう話をいっぱい読む。すると少しずつだが、そういう人の気持ちが分かるようになる。」

栗原「わかると良いことがあるのですか？」

國枝「優しい人間になれる。」

栗原「しかし世の中、優しいことが良いことばかりではないよう思います」

國枝「それは、優しいということと、弱いということを混同しているからです。優しさは弱さではない。相手が何を考えているのか、考える力を”優しさ”というのです。優しさというのは想像力のことですよ。あなたは優しい人だ。だからこそ私の勝手なわがままを聞いてくれたんでしょ。しかし優しい人は、
苦勞します」

(引用『神様のカルテ0』より岡田改)

私は、「本の良さ」を考えながら、この間職員室で、美月さんに、「美月さん、厳しい人と優しい人ってどっちが真面目かねえ？」と聞いていた時のことを思い出しました。

【その2】栗原の指導医である「大狸（本名は板垣）」先生との会話

栗原「國枝さんは、私のことを優しい人だと言ってくれました。しかし優しい人間が必ずしも正しい判断を下すとは限りません。これで良かったのか、よりよい選択肢があったのではないか。そんなことばかり考えています。」

大狸「人間にはな、神様のカルテってもんがあるんだ」

栗原「なんですか？」

大狸「神様がそれぞれの人間に書いたカルテってもんがある。俺たち医者はその神様のカルテをなぞっているだけの存在なんだ。人ってのは生きるときは生きる。死ぬときは死ぬ。栗ちゃんがいくらその生真面目な頭を振り絞って考えたって、國枝さんの人生が大きく変わることはない。國枝さんには國枝さんのために神様が書いたカルテってのがもともとあるんだよ。そいつを書き換えることは人間にはできないんだ。」

栗原「それは……、しかしずいぶんと無力な話ではないですか」

大狸「その通りだ。医者にできることなんぞ、限られている。俺たちは無力な存在なんだ。今の世の中、みんな命に対して勘違いをしている。医療ってものが少しばかり進歩したからって、人間が人間の命を延ばしたり縮めたりできると思うなんぞ、ただの誤解なんだ。俺たちが一生懸命、結石を取って治した高山さんが、二か月後には心不全で死にかけている。そういうことさ」

栗原「だとしたら、我々医者はどうすればいいのですか？」

大狸「それを考えるのが医者の仕事だ。大切なことはな、栗ちゃん。命に対して傲慢にならねえことだ。命の形を作りかえることはできねえ。限られた命の中で何ができるかを真剣に考えるってことだ。その意味じゃ、栗ちゃんはいいい仕事をしたと思うぜ」

栗原「ありがとうございます。」

(引用『神様のカルテ0』より岡田改)

私は、この会話を読みながら、いつの間にか出てくる名詞を「教師」とか「教育」とか「子ども」に置きかえて考えていました。当てはまるかどうかわかりません。でも「うん」と思えるところもありました。医者と教師では違うけれど、自然に考えてしまうということは、どこかつながるところがあるのかもしれない。皆さんはどうですか？

この本は、徹夜しなくても読めますが徹夜してでも読みたくなる本でした。ちょっと時間があるとき、本を手にしてみることを、ぜひお勧めです。時間がないことは承知のことですが、どこかで時間を作って、心に栄養剤を打ち込んでみてはいかがでしょうか。

学年末を迎えて

今朝の中日新聞三河版のコラムに、先日処分が発表されたみよし市の不祥事についての対応の悪さについて書かれていました。市教委や学校の対応に対する不信感を述べたものですが、そもそもの話題の原因は職員の不祥事にあることは間違いありません。非違行為を起こさなければ、こんな問題は起こらなかったはずで、郡の校長会議では、室長から不祥事ゼロのお礼がありました。校長会議をはじめとする会議のたびに、事務所から不祥事根絶の話があります。喫緊の問題であることを皆さんに意識してほしいと思います。

年度末を迎えます。子どもたちの指導と同時に、自分たちのまとめや整理も進めていってくださいね。次年度に宿題を残さないように、、、そして、不祥事防止の努力も。

* 『神様のカルテ0』『雪の断章』校長室ライブラリーに置きました。